

■今月の特選句

2022年3月



不経済学部も無事に卒業す

遠藤真太郎

どんな学部に入學しようと学費に見合う知識や技能を身につけてくれないと親にとっては全て「不経済学部」である。まあ卒業しただけですか。



欠伸出て春のデートはジ・エンド

竹下和宏

何気ない仕種に人間の深層心理は現れる。楽しさを装っても、言葉をどんなに飾っても、欠伸一つで本音が明らかに。この度は、ご愁傷様でした。



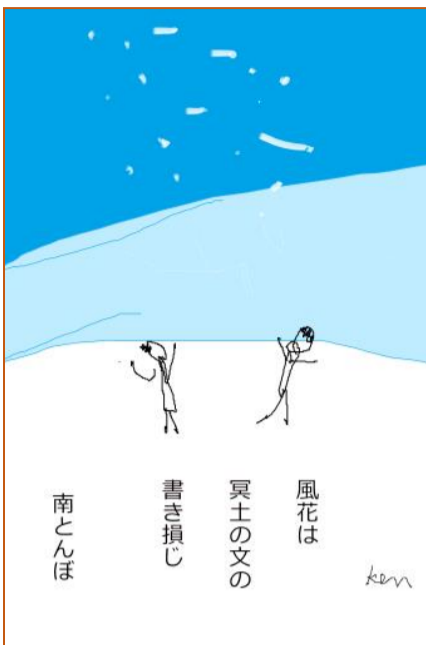
蜃気楼見かけ以上の安普請

小林英昭

しょせん蜃気楼だから期待はしていなかったが、思った以上にひどいね、こりゃ。ふにゃふにゃして耐震構造にもなっていない。全くの安普請よ。

■今月の特選句

2022年3月



風花は冥土の文の書き損じ

南とんぼ

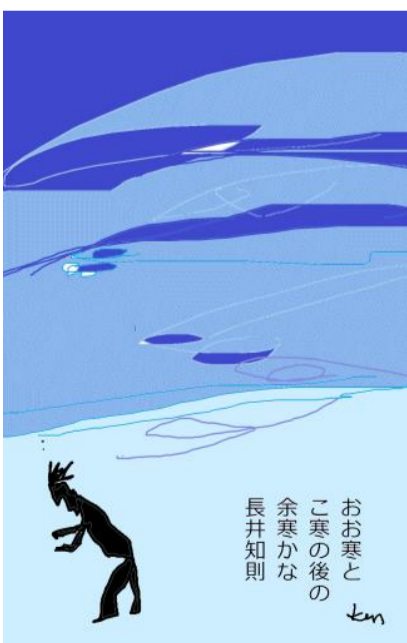
晴れているのに風に乗って降る雪を風花という。この雪は、あの世の方達が書き損じた手紙をちぎったものなのだ。ひらめきに詩と説得力がある。



振り出しに戻るか初電話

月城花風

結論の無い無駄話ほど楽しいものはない。初電話の話の中身もくだらないものほど良いが、電話を切るタイミングが永遠に来ないのが難点。



おお寒とこ寒の後の余寒かな

長井知則

経過を踏まえつつ現在の春の寒さを詠んでいる。「寒」の文字を重ねて楽しい句になった。言葉遊びは滑稽俳句の基本の一つでもある。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

窓の外気になる隣の冬座敷 ・・・お隣さんとしてこちら気にせむ	山本 賜
録音の祭囃子に春近し ・・・録音とても本物の音	大林和代
見舞うべき人からもらう寒見舞 ・・・子から年玉もらった気分	山下正純
着ぶくれの気休めと知る体重計 ・・・体重計が一番正直	石塚柚彩
メルカりに売っているかな春隣 ・・・今年寒くてすでに完売	谷本 宴
つくしんぼ足音ばかり聞かされる ・・・つくしんぼうは足音博士	森岡香代子
口の中何が何やら七草粥 ・・・「な」の音だけでなんとかまとめ	田中早苗
春なのにと睨まれてゐる温度計 ・・・仕方ないよと睨み返され	田中晴美
寝ることも仕事のひとつ三が日 ・・・仕事となればじつと我慢よ	飛田正勝
薬罐で熱爛凝り性の熱血漢 ・・・そのいずれもが冷めやすいのよ	土屋泰山
ドヤ顔も負け顔もみて猫の恋 ・・・腹立たしいはドヤ顔の猫	峰崎成規
大根抜く大根足のおほほほほ ・・・大根足てふ俗語が愉快	桑田愛子
雪女郎流行り廃りのなき白衣 ・・・白衣なれども魅力十分	柳 紅生

■今月の滑稽句

* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

ひととせの中の一ひ一月一日	相原共良
初笑ハ行の一つで笑ひ出す	相原共良
松竹パチパチ注連のメラメラどんど焼	相原共良
コロナ禍の袋小路で蟻地獄	青木輝子
たくわん漬石の頭は役立たず	青木輝子
赤ちようちん働き蜂の吹きだまり	青木輝子
ごろごろと二日ごろごろごろと	赤瀬川至安
恐ろしき見てはいけない初鏡	赤瀬川至安
着ぶくれて鉄人28号に	赤瀬川至安
大試験に挑むや神を吊り下げて	井口夏子
春浅し風の機嫌の荒らければ	井口夏子
節分や二口ほどの恵方巻	井口夏子
春めくやこれもファッションウイズコロナ	池田亮二
デジタル頭かアナログ頭か受験の子	池田亮二
お互いにぼけ除け守り春立ちぬ	石塚柚彩
囀や夫より少ない歩数計	石塚柚彩
喰積の酒に合うもの早く消え	伊藤浩睦
兜町にオミクロン株寒の入り	伊藤浩睦
嫁が君猫の意見を聞いてから	伊藤浩睦
春の田に無数の目玉戯れる	稲葉純子
馬鹿貝と呼ばれて馬鹿を演じ切る	稲葉純子
無声映画のワンシーンのごと山笑ふ	稲葉純子
節分会ただ恵方巻を食べただけ	井野ひろみ
日脚伸ぶセールの品を衝動買ひ	井野ひろみ
だみ声は恋に縁無し猫の恋	井野ひろみ
湯気の雲間によせ鍋の景色かな	上山美穂
すりガラスごしにふる雪まるい雪	上山美穂
冴え返る走れば星がついてくる	上山美穂
大寒の空の茜を鳶とぶ	梅野光子
はりはらはら立春の雪として	梅野光子
コロナ禍の友を訪ねる桜餅	梅野光子
老眼鏡にシンメトリーや春の文字	遠藤真太郎
富士麓に大砲の音春の駒	遠藤真太郎
まん延防止寒いので巣ごもりしてます	大林和代
水仙の葉にはへの字の折目かな	大林和代
寒行の素足わらじの徳を積む	小笠原満喜恵
威厳の父正月の厨房へ	小笠原満喜恵
一目ずつ福を編み込みスエーター	小笠原満喜恵

朧月選挙の話ばかりして

行く末は佳きことばかり古希の春

ぜんまいののの字を揃え花束に

合コンや籤引き負けて大根引

初恋や爪の先まで風邪心地

暖房車にも風を入れるやマスクして

古暦けんかの跡をなつかしむ

伊予みかん人にもそれぞれ酸味かな

伊予人に伊予の訛や春うらら

春寒し我には個人情報なし

肘と肘拳と拳新年会

カレー屋のドア横の席隙間風

綿虫に住所氏名を訊くなんて

ジャム巻いてクリーム巻いて恵方巻

水仙や行動制約がけつぷち

過去最高感染者数寒波急

馬大頭(オニヤンマ)木乃伊(ミイラ)となりし冬の窓

引き潮に引かれ初蝶ふらりかな

賑はひも入れて家族の初写真

着ぶくれて思考回路に怠けぐせ

起きがけのグーパー体操春隣

初音ゆゑゆるせ中八季重なり

ごきぶりやそつと丸める新聞紙

節分や鬼に金棒落花生

節分や鯛の干物に柁挿す

春立つもコロナ感染過去最多

春泥が捕らふ警官立ち往生

素振り百老いにや拷問寒稽古

立ち入れば踏むなと光る霜柱

今年こそ今年こそはと齢を取る

殺気立つ竹刀さばきや寒稽古

聞き役に徹しまどろむ日向ぼこ

英文の絵馬も混じりて道真忌

曲り角石焼芋の声探す

すたこらすたこら去年までの事

「中止」そうだろうと電話取る

りんご拭く青森をもっと知りたい

岡田廣江

岡田廣江

岡田廣江

北熊紀生

北熊紀生

木村 浩

木村 浩

金城正則

金城正則

金城正則

久我正明

久我正明

久我正明

工藤泰子

工藤泰子

工藤泰子

桑田愛子

桑田愛子

小泉和子

小泉和子

小泉和子

小林英昭

小林英昭

佐野萬里子

佐野萬里子

佐野萬里子

壽命秀次

壽命秀次

壽命秀次

白井道義

白井道義

白井道義

鈴木和枝

鈴木和枝

鈴木和枝

鈴木和枝

鈴木和枝

餓鬼大将今日は神妙智恵詣	高田敏男
春の雪名句生まれて薄化粧	高田敏男
変身す信太狐や涅槃像	高田敏男
球春や俺流でゆくビッグボス	高橋きのこ
現役でなくてよかったコロナ春	高橋きのこ
節分会鬼でも誰でも立ち寄つて	高橋きのこ
今や人を恋ふる銀座の柳かな	竹下和宏
夕刊に非ず昼刊日は永し	竹下和宏
冬すみれ小さな幸をわたしにも	田中 勇
老人に歓迎されて寒雀	田中 勇
ペタル踏む冬夕焼に染まりつつ	田中 勇
何とまあとんびがたかを成人式	田中早苗
いい加減定年欲しや寒四郎	田中早苗
乾燥の肌に鞆(あかぎれ)牙を剥く	田中晴美
寄せ鍋の調味料として笑い声	田中晴美
寄居虫や北斎までも転宅す	田中やすあき
椀の蓋びつたり付いて浅蜷汁	田中やすあき
黄砂来る逆さ睫毛の駝鳥にも	田中やすあき
太古よりSDGs薬喰	谷本 宴
ライナスの毛布抱えて眠りたし	谷本 宴
着ぶくれて便座を立つに気合ひかな	田村米生
日向ぼこ日当る場所は女性席	田村米生
マスクして黒目ばかりを動かしつ	田村米生
北風に負けじと唸り室外機	月城花風
手袋が護衛左手薬指	月城花風
霜柱踏めば声あぐ断末魔	土屋泰山
楽天地頭寒足熱堀炬燵	土屋泰山
燃え溶ける俺の細胞冬送る	堤 宏文
春近しウォームアップの時間のび	堤 宏文
モノクロも真紅に染めて寒茜	堤 宏文
黙食のカラスは鳴かず春浅し	坪田節子
新薬とともに待たれる春の声	坪田節子
紅梅が寒い寒いと言つてゐる	坪田節子
三ツ星をリモートで取り寄せ三が日	飛田正勝
四人席で若気を誘う年忘れ	飛田正勝
下萌を覗いて休む散歩道	長井知則
青海苔の味噌汁二杯また一杯	長井知則

鶯餅の粉犯人を教へけり

飛ばす端(はな)から風に消えしやぼん玉

水琴窟浅春の音ひびかせて

追い出され犇き合うや外の鬼

義理チョコが変異し嬉しオホンメイ

早く来い春待つビールの独り泡

すさまじき冬の満月トンガ噴く

寒紅をひく指導者や笑ひヨガ

冬の星昔はこんなものぢやなし

正月芸膝のお皿も廻したき

七草はカレーの中と嘯きぬ

御祓ひは体温測定初詣

仕上がれば誰かに似てゐる雪だるま

コツコツとヒール近づく春隣

春隣鳩と鳩との待ち合はせ

マスクして鼻水流しすすり上ぐ

一段と寒さ身に沁む灯油高

着ぶくれてチマチマ暮らす余生かな

やがて来るマスクが季語でなくなる日

油揚げに見えたか禿頭掠めて春鳥

恋猫の夜半は窓辺のジュリエット

山笑ふ山彦つられ笑ひだす

瀬魚を祭る湯浴みのおつむ

長靴はおらのアッシー麦を踏む

達磨ストーブけんかを売られ黙秘権

初氷割る登校の日の最後尾

二度三度かばんをのぞく受験の朝

重ね着をこばむ我が子に母負けず

夢見るはポパイのやうにはうれん草

雪女郎絶世の美女と思ひたし

酔払ふ人見当らず去年今年

しゃぼん玉丸くなりきる己が顔

できるなら骨まで食べたい桜鯛

またたきもせで凍星となつてゐる

俳人や二月に「ん」を割り込ませ

しらうおの悶死を踊り食いなどと

名本敦子

名本敦子

名本敦子

花岡直樹

花岡直樹

花岡直樹

浜田イツミ

浜田イツミ

浜田イツミ

久松久子

久松久子

久松久子

日根野聖子

日根野聖子

日根野聖子

細川岩男

細川岩男

細川岩男

南とんぼ

南とんぼ

峰崎成規

峰崎成規

椋本望生

椋本望生

椋本望生

向田将央

向田将央

向田将央

村松道夫

村松道夫

村松道夫

森岡香代子

森岡香代子

八木 健

八木 健

八木 健

雪搔や多勢に無勢なれどいざ
 その先は三途の川や寒泳ぎ
 電柱が枯木にいだくシンパシー
 わが五体上肉となる朝寝かな
 コロナ菌噂話に便乗す
 雲百日あと幾日降る空仰ぐ
 風向きに素直な雪の吹きだまり
 はるかなる佐渡は借景冬椿
 風神の声高らかに冬木立
 美味しさを声に出したる恵方巻
 寒鴉餌を欲しげに近づき来
 私そろそろ出番ですよと梅の花
 恵方巻おしゃべりさんも丸かじり
 初雪のタイヤを猫が嗅いでいる
 鳥は上野の森で人を待つ
 古希なれど乙女心で雛飾る
 昔話よ囲炉裏のおでん取り分けつ
 冬夕焼波も草木も染め上げて
 立春の鴨の隊列ディスタンス
 春立つやじゃじゃ馬の娘も花嫁に
 木枯に猫背叩かれ家路かな
 和菓子屋に春が来ました桜餅
 踏めば鳴る庭の小石は春の音
 控え目の人の好まし冬桜
 つちふるや梁山泊の空白む
 弁へてスマホのなかの雛の客
 芹刻む音のさくさくさくさくと
 古草ふかふか踏まれても踏まれても
 「を」の文字を「WO」と発音の伊予の春
 一点に光を集め白椿
 一目だけ一声だけと初昔
 松過のわが家も素顔に戻りけり
 女正月わが家は年中女正月

八塚一青
 八塚一青
 八塚一青
 柳 紅生
 柳 紅生
 柳村光寛
 柳村光寛
 柳村光寛
 山下正純
 山下正純
 山田真佐子
 山田真佐子
 山田真佐子
 山本 賜
 山本 賜
 弓達美沙子
 弓達美沙子
 弓達美沙子
 横山洋子
 横山洋子
 横山洋子
 吉川正紀子
 吉川正紀子
 吉川正紀子
 吉原瑞雲
 吉原瑞雲
 吉原瑞雲
 渡部美香
 渡部美香
 渡部美香
 和田のり子
 和田のり子
 和田のり子